



7/26(金) 晴れ DRY 公式予選 9位 (2選手のベストタイム平均値 2'08"311)

7/27(土) 雨 WET トップ10計時予選 天候不良により中止

7/28(日) 晴れ DRY 決勝レース 8位 (211周) 出走台数/66台 観客動員数(4日間合計)/109,000人

予選9位 / 決勝8位

第1ライダー 生形秀之

第2ライダー トミー ブライドウェル

第3ライダー ブラッドリー・レイ

■ BSBコンビが奮闘。2年連続プライベート一最上位を記録！

チームとしてとして3年目の鈴鹿8耐はライダー、チームが一枚岩となり全力を尽くしたことが2年連続プライベート最上位という結果につながったが、その道のりは、険しいものだった。2019年は、全日本JSB1000クラスで2年目のシーズンを戦う上で、マシン面、体制面を考えた限り強化し、鈴鹿8耐で表彰台を獲得するために準備をしていた。しかし開幕戦を前に、生形がモトクロストレーニング中に転倒。右ヒザの靭帯等を損傷してしまう。生形は鈴鹿8耐に間に合わせようと手術を断り、リハビリとトレーニングに励む。レースに復帰をしても苦しい戦いが続いたが、6月に入りようやく普通に乗りこなせるようになってきていた。

2年目のトミー・ブライドウェルを、そしてブラッドリー・レイのブリティッシュスーパーバイク (BSB) コンビを招集し、事前テストに臨んだ。7月9～11日に行われた合同テストでは3人が揃いマシンセットを詰めて行くが、3日目は雨でドライのセットを決められずにいた。レースウィークは、例年より1日早く水曜日から。一番マシンのことを分かっている生形が最終的なジャッジをしながらセットを進めていくが、水、木の走行では思ったほどまとめきれずにいた。その分も、金曜朝にある2時間のフリープラクティスで詰めて公式予選に臨みたいところだったのだが、そのアクシデントはセッション開始早々に起こってしまった。約60台のマシンが一斉にコースイン。生形が130Rに差し掛かったとき、急に減速したマシンがあり、避けきれず接触転倒。右鎖骨と肋骨を骨折し、右肺にダメージを受けドクターヘリで病院に搬送されてしまう。

<予選>予選はもとより決勝も生形が走れない状況となってしまうが、トミーとブラッドリーは“生形の分も頑張ろう”と1カーでコースインしチーフメカの松本、エンジニアの葛西を中心に任務を遂行していく。そして公式予選1回目では、2人ともアタック中に赤旗が出てしまったことから早めに切り上げ、2回目のセッションに全力をかけることを選択。その思惑通り2回目にタイムを上げた2人は、トミーが2分08秒098、ブラッドリーが2分08秒525をマーク。平均は2分08秒311となり9番手につけてトップ10トライアルに進出を決めていた。

<決勝レース>土曜は台風の接近によりトップ10トライアルは中止、予選順位の9番手グリッドからのスタートとなる。スタートライダーはブラッドリー。エスパルスドリームレーシング・IAIにとって今年の鈴鹿8耐で最大のハイライトと言っても過言ではない、ホールショットを決めることになるのだが、実は彼にとってル・マン式スタートは初めてのことだったようだ。目の覚めるようなスタートから始まった決勝レース。その後、バックストレートで2番手に下がりオープニングラップを制することはできなかったが、ワークス勢の後ろにつけ安定した速さで周回を重ねていた。数周するとセーフティカーが入るが、意外に燃費がよくなく、1回目のピットインは予定よりも早く戻って来てしまい大慌てでピット作業をこなす場面もあった。その後はトミーも力走を続け、淡々と周回をこなしてくれた。決勝中に生形も病院から鈴鹿に駆けつけチームの士気を高める。ブラッドリーの走行の際、カウルのファスナーが緩むことがあったがその他は大きなトラブルもなく、チェッカーまで作戦通り戦っていった。結果的に、上位陣に大きなアクシデントもなく順位の変動もなかったが、BSBコンビがプライベート最上位となる8位という結果をもたらしてくれた。





S-PULSE DREAM RACING - IAI

2019 鈴鹿8耐参戦報告

2019 “コカ・コーラ”鈴鹿8時間耐久ロードレース 第42回大会 参戦報告書

#95

7/26(金) 晴れ DRY 公式予選 9位 (2選手のベストタイム平均値 2'08"311)

7/27(土) 雨 WET トップ10計時予選 天候不良により中止

7/28(日) 晴れ DRY 決勝レース 8位 (211周) 出走台数/66台 観客動員数(4日間合計)/109,000人

予選9位 / 決勝8位

- 第1ライダー 生形秀之
- 第2ライダー トミー プライドウェル
- 第3ライダー ブラッドリー・レイ

<トミー・プライドウェル コメント>

「すばらしい週末でした。生形に残念なアクシデントがありましたが、日曜に彼の姿を見て心が震えました。2人のライダーで周回したので体力的に非常に厳しくテストも十分では無かったが、チームはすばらしい仕事をしてくれました。戦略の変更などはありましたがいいレースだったと思います。昨年に続き、このチームで走れた事を感謝しています。チームをサポートしてくれたSUZUKIをはじめとしたスポンサーとファンにも感謝しています」

<ブラッドリー・レイ コメント>

「とにかく全力を尽くしましたし、今回の経験はこれからのレースに大きく役に立つと思います。生形のアクシデントはとても残念でしたがトミーと2人で生形の分まで頑張ろうと話していました。ル・マン式スタートは初めての経験でしたがホールショットは最高にエキサイティングでした。初めて合流したチームでしたが家族のように迎えてくれました。今年も8耐を走るチャンスを与えてくれたチームとスポンサーに最大限の感謝と賛辞を贈ります」



<生形秀之 コメント>

「金曜日にケガをしてしまい、応援してくださる皆さんに多大なご心配をおかけしました。チームスタッフ、ライダーのトミーとブラッドリーにも大きな負担をかけてしまいました。そんな中、みんなが頑張ってくれたおかげで今年もプライベーター最上位という結果を残してくれました。目標としていた表彰台にはまだまだ足りない部分があることを感じましたが、レース展開を考えるとすばらしい内容、そして結果だと思えます。今年も、このチャレンジを支えてくださった全ての皆さんに感謝いたします。ありがとうございました」

SPONSOR

共立電気工事(株) (有)アスワンシーズ・ラボラトリー ENDO FUKUDA GY小野 尾上力 (株)スペース空調 (株)サイラボ (株)シトミック (株)タカアキ 鈴木モータース (有)信越機電 松田製作所 葦山石材(株) 那波健次郎
 (株)検査住宅名古屋 カレイジーティズ 倭伽 ニムラドウウ Yota Bar Restaurant Cor 鯨のひげ (株)雄大 三重伊藤家 SAT0021 ケアストレッチ Kiyoshi questd15794a560 Dchan (有)ピークルース